

別紙解答用紙に解答すること。

次の文章を読んで解答用紙の設問に答えなさい。

アスリートの本当の「強さ」

北京五輪の直前合宿を日本で行うヨーロッパの選手団が多いらしい。

北京の天気や水質に不安があるのだ。日本ならほとんど時差がなく、空気も水も大丈夫だし、施設も食事もクオリティーが高い。だが、空気や食事が変わったからといって本領が発揮できないアスリートというのは、果たして「強い」のだろうか。

アスリートは生物学的な個体差を競う。メンタルストレスに強いとか、胆力があるとか、どこでも熟睡できるといった資質は、場合によってはフィジカルな能力以上に勝敗や記録に関与する。

だとしたら、どんな劣悪な環境でも最高のパフォーマンスを発揮できるアスリートをこそ「最強」と呼ぶべきではないか。

南アフリカの義足のスプリンターは、「義足は人工装置」だとして、五輪の出場が認められなかった。だが、シューズの材質もウェアのデザインも、記録が出やすいよう徹底的に人の手が加えられている。履くと記録が向上するシューズと義足との間に、本質的差異があるのか。

そもそもメダルを目指すようなアスリートは、異常な身体の使い方をしているのである。

「死んでもメダルが欲しい」という人にむかって「それでは身体を壊します」というのは筋違いである。長寿は人間に賦与された最もすぐれた身体能力の一つだが、その優劣を競う長寿者はいない。「競う」とこと自体が身体に悪いことを知っているからである。

(2008年3月31日)

(出典：内田 樹『直感はわりと正しい 内田樹の大市民講座』朝日文庫、2017年、244-245頁より引用)

以上

